



図書館だより

読書月間特別号
第2弾

雨が降る梅雨時、図書委員会では「読書月間」とし、本を読むことをお勧めしています。今号は、1、2年生の図書委員から皆さんにお薦めする本をご紹介します。本には「心を落ち着かせる」という効果もありますので試してみてくださいね。

2-1 加戸 暢矩

『思いやりのころ』 木村耕一著
この本は、歴史上の人々のエピソードから思いやりの大切さを伝えています。私は、当時足軽だった秀吉が、信長に対し思いやりを持って接したために、後に大出世をする話が印象深いです。この話を読んで、私は思いやりの大切さを知り、皆に思いやりを持って接しようと思いました。



2-2 佐藤 綾香

『涼宮ハルヒの憂鬱』 谷川 流著
破天荒なハルヒと、面倒ごとにはあまり関わりたくないキョンのハチャメチャな学園生活。SFと学園ものの小説が好きの方にオススメ。シリーズなので続けて読むと面白いです。



2-4 大森 竜

『×ゲーム』 山田 悠介著



いじめはやがて恐怖となって戻ってくる……。昔、小学生の時にあったいじめでの一言が、大人になってからの自分の人生をどんどん狂わせていく怖い物語。人間の怖さがわかります。

2-4 草野 郁也

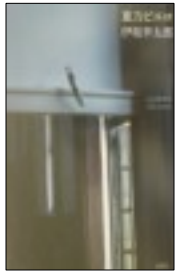
『ダスト』 山田 悠介著

もしあなたが見知らぬ人間と地図にももらえないような無人島においてかれたらどうしますか？あなたは期限まで生き残れるか…。人の生に対する執着心を一度読んでみてください。



2-3 鈴木 翔太

『重力ピエロ』 伊坂 幸太郎著
この本は推理小説ですが、他とは違いいくつもの事件が平行し、関係して起こります。いろいろな事がクロスして謎がとけていきます。新しい推理小説なのでぜひ読んでみてください。



2-5 佐藤 龍郎

『塩狩峠』 三浦 綾子著
主人公の永野信夫の激動の人生を語った、「人間はなぜ存在するのか」を問う長編小説です。主人公の生き方にとっても心を打たれました。最後まで信念を貫いた人です。



2-5 鈴木 理沙

『スイッチを押すとき』 山田 悠介著
命を絶つスイッチを渡され、施設に閉じ込められている子供たち。人間を信じられなくなり、次々とスイッチを押すのだが…。山田悠介の作品の中でも珍しく感動する物語です。特にラストの衝撃の事実には驚かすにはられません。



2-6 日下部 棕

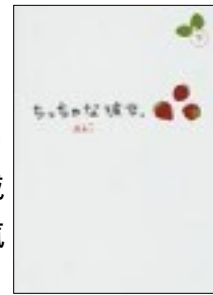
『月 MOON LUNA』 秋月 さやか著



「三日月は新たな運命を告げ、半月は運命の旅路を照らす。満月はその鏡に世界を映し、闇の月は眠りの中で夢をみる」。月をテーマにしたミニ写真集です。そえられる詩もお薦めです。

2-7 鈴木 麻美

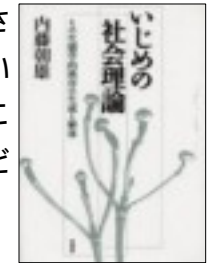
『ちっちゃな彼女。』 Aki著
身長が小さい高校生の女の子が、親友、友達、後輩、先輩と周りの人々とともに恋愛を通して成長していく話です。主人公の気持ちの変化にドキドキするし、感動する場面もいっぱいあります。



2-1 八鍬 和輝

『いじめの社会理論』 内藤 朝雄著

この本を読めば、いじめはこの世から消えることがないと分かります。皆さんに読んで欲しいと思います。いじめはなくせると思う人はぜひこの本を読んで本当になくなるかどうかを考えてみてください。



2-2 鈴木 雅人

『迷い猫オーバーラン』 松 智洋著

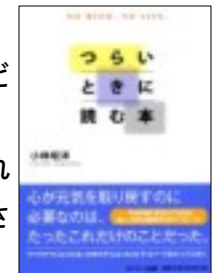


洋菓子店「ストレイキャッツ」が舞台。巧と文乃は店の維持だけではなく、様々なハプニングに巻きこまれる。姉に拾われてきた猫耳家出少女が起こす騒動が面白い。

2-7 志賀 奈美子

『つらいときに読む本』

小林 昭洋著
この本を読んでいると、なるほどと納得する事がたくさんあります。何か嫌になったとき、心が折れそうになった時、読んでみてください。 NO MIND NO LIFE.



2-6 江尻 知之

『ニート・フリーターと学力』 佐藤 洋作著
なぜフリーターになるのか、ニートになってしまう理由は何か、を取材やその調査結果から書いている。悪いイメージのある「フリーター」という言葉だが、それでもちゃんと働いている事を考えれば彼らが悪いのではないという事がわかる。



2-3 小泉 優真

『ハリー・ポッターと謎のプリンス』 J・K・ローリング著
「不死鳥の騎士団」ではダンブルドア対ヴォルデモート戦だったが、この「謎のプリンス」ではいよいよハリーとの決戦が大きな見所になっている。長く続いたこの物語の最終巻なので必ず読む事をお薦めします。

